

ヒータ・強制通風ユニット

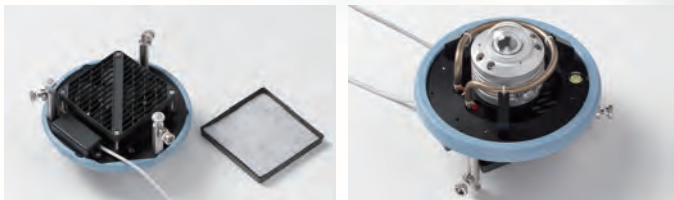
- 日射計、夜間放射計、放射計用ヒータ+強制通風ユニット
- 過酷な気象条件下での精度維持・向上に役立ちます
- 動作温度-30~+70℃、気泡水準器付
- 供給電圧DC12V、通風ファン消費電力5W、ヒータ6W

ヒータ・強制通風ユニットHD9906.51は、太陽放射センサ(日射計、夜間放射計、放射計など)を収納し、屋外のあらゆる気象条件下で使用できるように設計されています。

当ユニットの強制通風によって日射計など測定器の温度を一定にし、特にセンサの光学部品の露や霜を防ぎ、測定器本体に対してガラスドームが冷えることによって起こるタイプAゼロオフセット(日射計や夜間放射計に付随)を軽減し、測定精度を向上させることができます。

また、非常に厳しい環境下では、ヒータを作動させることができ、日射計ガラスドーム上の氷生成を防ぐことができます(ヒータ機能がONの時にはタイプAゼロオフセットが増加する可能性があります。これを考慮して、ヒータ機能は測定器表面の氷雪を取り除くために必要な時間のみ使用することをお勧めします)。

HD9906.51はデルタオーム日射計LPPYRA02、LPPYRA10、夜間放射計LPPIRG01、放射計LPPHOT02、LPUVA02、LPUVB02に使用できます。



仕様

供給電源: 通風ファンDC12V(5W)、ヒータDC12V(6W)
 動作温度: -30~+70℃
 重量: 約2.3kg

ヒータ・強制通風ユニットの組立てと取付け

日射計をヒータ・強制通風ユニットに取付けるには、以下の手順に従って下さい。

- 1 ドーム状のカバーを固定しているナット3個を緩めます。
- 2 HD9906.51のカバーを取外します。
- 3 白色の遮蔽板を日射計から取外します。
- 4 レベル調節ネジを日射計本体から取外します(必要であれば、HD9906.51の調整ネジで高さが調整できます)。
- 5 M5ネジ2個を使用して日射計をヒータ・強制通風ユニットに取り付けます。
- 6 日射計のケーブルが正しく接続されている事を確認して下さい。
- 7 HD9906.51のカバーを再び定位置に戻し、ネジでしっかりと固定します。

日射計はヒータ・強制通風ユニットに長さM5×60mmのネジ2個で固定します。正確な日射量の測定を行うには、HD9906.51を水平に設置する必要があります。ヒータ・強制通風ユニットの基板にある気泡によって水準を調整して下さい。

HD9906.51の電気的接続部は基板の下に位置しています。2組の端子があり、1組は強制通風用、もう1組はヒータ用です。

通風ファンの極性に注意して下さい。極性を間違えると、空気の流れが本来の方向と逆になります(底部から上部)。

Fig.2は2組の端子とそれぞれの機能の対応を示しています。

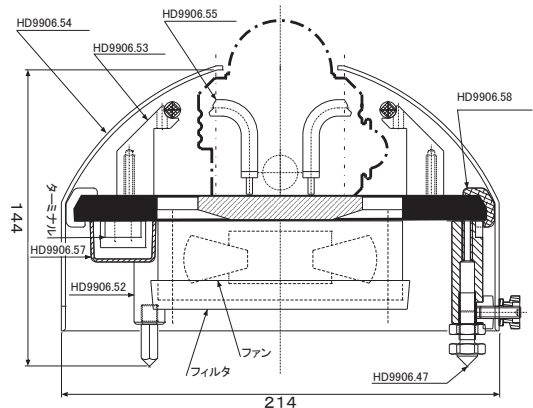


Fig.1

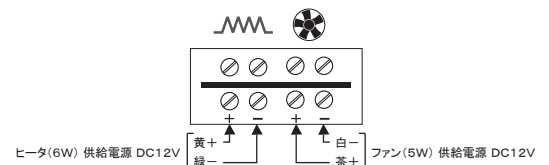


Fig.2

通風ファンモータの型式: EBMPAPST4312V(保護等級IP54、能力170m³/H)、フィルタ(EBMPAPST: PMFA12OT) フィルタは定期的チェックし、汚れている場合は取り替える必要があります。

